

台風第 26 号の影響に伴う農作物被害防止対策

令和 8（2026）年 9 月 28 日
河内農業振興事務所

9 月 28 日 10 時 53 分気象庁の発表によると、非常に強い台風 26 号は南大東島の北約 100 キロにあって、1 時間におよそ 15 キロの速さで東北東へ進んでいます。

今後、日本の南を東北東へ進む見込みとなっており、10 月 1 日の午後にかけて東日本に近づくおそれがあります。

台風の接近に伴い、県内においても大雨や強風等の影響が懸念されることから、以下の技術対策について早めに準備を行い、被害の未然防止を図りましょう。

I 共 通

1 農作業安全の確保

- (1) 気象庁が発表する最新の台風情報を入手し、台風の接近時や通過時は農作業を中断する。
- (2) 台風通過後は、周囲の状況を十分に把握し、身の安全を確保した上で農作業を再開する。

2 大雨対策

- (1) 大雨による冠水等が懸念されるので、排水路の点検を行い、浸水及び冠水時の速やかな排水に備える。
- (2) ゴミや刈り払った雑草が水路を塞がないよう、事前に取り除いておく。

3 停電に備えた対策

- (1) 停電で使用できなくなる機器を事前に確認しておく。
- (2) 発電機を準備し、施設及び作業に必要な最低限の電力を確保する（ガソリン発電機、トラクター動力発電機等）。また、試運転を行うとともに、燃料を確保しておく。
- (3) 停電後、制御装置の設定が初期化される場合があるので、発電機を稼働後に動作確認する。

4 防風網・防鳥網・多目的防災網等の点検、補修

- (1) 網が飛ばされたり破られたりしないよう固定状況を点検するとともに、破損部があると強度が低下するので補修しておく。
- (2) 網目の細かい多目的防災網等は、強風による骨材への負荷を軽減するため、網の外側に支柱等を建て棚線に固定する。

5 ハウスの点検、補修、補強

- (1) 被覆資材の破損部や固定が不十分なところがないか点検し、補修しておく。
- (2) 筋交いにより奥行き方向への倒壊を防止する。また、ハウスの肩部を引っ張り資材や、つかえ棒で補強し、骨材の変形を防止する。
- (3) 使用していないハウスは、天井や妻面のビニールをはずして風を抜けやすくし、施設の損壊を防ぐ。
- (4) 風で飛びそうなハウス周辺の資材等を片付ける。

6 事後対策の準備

- (1) 台風による被害に備えて、速やかに回復措置がとれるよう、排水対策や施設等の修復、病害防除等の準備をしておく。

II 普通作物

1 水 稻

- (1) 大雨により冠水した場合は、速やかに排水に努める。
- (2) ほ場にゴミなどが流入した場合は、刈取の妨げにならないよう取り除く。
- (3) 降水後の収穫は籾水分が高く、急激に乾燥すると胴割米が発生しやすくなるため、ゆっくり乾燥して（毎時乾減率 0.8%以下）、品質低下を防ぐ。

2 大 豆

- (1) 葉焼病や斑点細菌病を予防するため、台風通過後に登録薬剤を散布する。

3 そ ば

- (1) 大雨により冠水及び浸水した場合は、速やかに排水に努める。

III 野 菜

1 全 般

- (1) 大雨により病気が発生しやすくなるので、必要に応じて台風通過前後に薬剤防除を実施する。

2 いちご

- (1) 炭疽病が発生しやすくなるので、台風通過後の薬剤散布を徹底する。
- (2) 育苗及び本ぼハウスの強風・排水対策(補強、修繕、ハウス周辺排水対策)を行う。
- (3) 本ぼ内が浸水した場合は、排水後畝の補修を行い、状況に応じて再度土壌消毒を行う。
- (4) 定植作業が大幅に遅れる場合は、苗の花芽分化を確認後、葉面散布等による追肥を行い極端な肥料切れを防ぐ。

3 トマト、アスパラガス

- (1) 強風による損傷や倒伏を軽減するため、風の強い時間帯はハウスを閉め、台風通過後は直ちにハウスを開ける。

4 夏秋なす、きゅうり等

- (1) 強風による損傷や倒伏を軽減するため、茎や枝を支柱やネット、誘引線によく固定しておく。また、被害を軽減するため、収穫可能な果実は早めに収穫する。

5 にら、ねぎ等

- (1) 排水対策を行うとともに、浸水及び湛水により根の生育が停滞するおそれがあるため、当該ほ場は生育の回復を補助する目的で、農薬散布時に窒素成分を含む葉面散布剤等の混用を検討する。

IV 果 樹

1 全 般

- (1) 収穫期を迎えた品目や品種は、強風による落果が懸念されるため、収穫可能な果実は事前に収穫する。
- (2) 大雨に伴い病害の発生が懸念されるため、降雨前の防除を徹底する。
- (3) 台風通過後には、強風によるかく乱のためカメムシ類の飛来が一時的に増加するおそれがあるので、果樹園への侵入状況を注視して適宜防除する。

2 なし・ぶどう等（棚仕立て果樹）

- (1) 強風による枝や果実の損傷を軽減するため、結果枝等を棚に誘引し固定しておく。
- (2) 防風ネットを設置してあるほ場では、ほ場出入り口の開けているネットを閉める。

3 りんご等（立木仕立て果樹）

- (1) 強風による枝や果実の損傷等を軽減するため、側枝等の太枝に支柱を設置したり、結果枝同士を結束したりするなどして固定しておく。
- (2) りんごのわい化栽培は、主枝等をトレリスへしっかりと固定し倒伏を防止する。
- (3) 着色向上のための反射シートは、風で飛ばされないよう片付ける。

4 苗木

- (1) 強風による倒伏を軽減するため、支柱に固定しておく。特に、育苗中の大苗は倒伏しやすいので十分注意する。

V 花き

1 全般

- (1) 大雨により病気が発生しやすくなるので、必要に応じて薬剤防除を実施する。

2 露地ぎく

- (1) 強風対策として、支柱やネットのゆるみを直し、十分に補強する。ネット上げの作業が遅れている場合は、風による茎の曲がり防止するため、所定の位置までネットを上げておく。
- (2) ほ場が冠水しないように、事前に排水溝を設けるなど、対策を講じておく。特に、病気が発生しやすくなるので、台風通過前後に薬剤防除を実施する。

VI 畜産

1 畜舎

- (1) 強風対策として、カーテン等の固定状況を点検し、補修、補強をしておく。
- (2) 雨水の流入が懸念される場合は、土のう等により対策を講じておく。
- (3) 車両や飼料、機器を水没しない場所へ移動しておく。
- (4) 大雨により浸水する可能性のある電気設備の防水対策を講じておく。
- (5) 堆肥舎への風雨の吹き込みにより堆肥や汚水が流出しないよう対策を講じる。
- (6) 風雨により畜舎や周辺フェンス等が破損して外部から野生動物が侵入しないよう、施設の点検を実施する。

2 飼料用とうもろこし

- (1) 大雨により作土流失の可能性があるので、ほ場の排水路を確保する。
- (2) 折損したものは、速やかに収穫する。土の付着したものは、変敗の原因となるため収穫しない。

3 停電による搾乳不能に備えて

- (1) 発電機を準備し、燃料を確保しておく。
- (2) 停電時に搾乳する場合は高泌乳の牛から行い、濃厚飼料の給与を控えることで乳量を抑え、乳房炎を予防する。

VII 農地・農業水利施設について

- (1) 特に田んぼダムを設置している農地では、排水柵・畦畔の点検や補修を行い、田んぼダムの効果が発現するよう努める。
- (2) 農業水利施設の巡視、動作点検(堰のゲート開閉等)、事前操作を行う等、適切な施設管理を実施する。
- (3) 特に、ため池の被害防止のため、事前に洪水吐・堤体等の点検、洪水吐の閉塞の原因となる流木、浮遊物の除去等を行うとともに貯留水の放流による水位低下に努める。
- (4) 災害発生後、最新の気象情報を収集し、土砂災害、河川の増水や氾濫に注意するなど、身の安全を確認した上で農地や農業水利施設の巡視及び点検を行う。
- (5) 被害が確認された場合は、市町や農業振興事務所へ速やかに連絡する。

9月～11月は「秋の農作業安全確認運動」の実施期間です。



高齢農業者の事故が多発しています！以下のことを心がけましょう。

- ・こまめな休息や健康診断の受診等、疲労回復と健康管理の徹底
- ・歩行型トラクターでのバックの際は、必ず後方と足元の安全確認を
- ・複数人での作業を基本とし、一人での作業の場合は携帯電話を持つ